

平成29年度展覧会スケジュール

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
会期	4/1~4/23	4/29~6/18 (前期4/29~5/21、後期5/25~6/18)		7/1~8/6	8/8~9/10	9/16~11/26 (前期9/16~10/22、後期10/25~11/26)		12/2~1/14		1/20~3/25 (前期1/20~2/18、後期2/22~3/25)		
第1展示室	秋野不矩画業の地平Ⅰ 〜通かなる世界へ〜	特別展 日本画「江戸の京都」		秋野不矩画業の地平Ⅱ 〜豊穡なる水の恵み〜	秋野不矩画業の地平Ⅲ 〜陽光と灼熱の大地〜	浜松市政令指定都市移行10周年記念企画展 浜松市美術館コレクション選 〜近現代日本絵画の道筋〜		秋野不矩画業の地平Ⅳ 〜古き日を想う〜		特別展 創画会70周年記念展		
第2展示室												
企画展示室				夏休み特別企画 ワークショップ ガラス絵をかこう				12/2~17 年末年始休館 (12/25~1/3)				

(主)スケジュールは都合により変更する場合があります。

美術館
だより



No.14

秋野不矩美術館だより
発行日
平成29年3月31日
編集・発行
浜松市秋野不矩美術館

浜松市政令指定都市移行10周年 記念企画展 浜松市美術館コレクション選 〜近現代日本絵画の道筋〜

平成29年9月16日(土)~11月26日(日)

前期:9月16日(土)~10月22日(日)、後期:10月25日(水)~11月26日(日)

市民ギャラリーのご利用を

秋野不矩美術館2階の企画展示室は、美術館が特別展等で使用する期間を除き、皆さんの芸術活動の発表の場(市民ギャラリー)としてご利用できます。使用料金は、1日当たり6,480円(入場料を徴収する場合は19,440円)です。利用申込みは随時受け付けておりますので、お気軽にご相談ください。

◎平成29年度の利用予定は次のとおりです。(平成29年1月現在。展覧会名称は予定。)

- 4月 1日(土)~ 4月 2日(日) イスマイルチョウドリ個展(絵画)
- 4月 4日(火)~ 4月 9日(日) Welcome to Toyo's 幽遊 World(絵画)
- 4月11日(火)~ 4月16日(日) 現代作家美術展(絵画・彫刻・版画・インスタレーション)
- 4月18日(火)~ 4月23日(日) 第1回矢野会作品展(絵画・手芸・書・写真)
- 7月 4日(火)~ 7月 9日(日) 第9回天竜日本画同好会展(日本画)
- 7月11日(火)~ 7月17日(月) 若杉憲司・若杉しのぶ 2 works展(絵画)
- 7月19日(水)~ 7月23日(日) 宮澤正人展作品展「縁起のいい無人駅」(写真・立体)
- 7月25日(火)~ 7月30日(日) パレットクラブ展(絵画)
- 8月 8日(火)~ 8月20日(日) 浜松市中学校美術部夏の写生大会作品展(絵画)
- 8月29日(火)~ 9月 3日(日) 山口秀太郎彫刻展(彫刻)
- 9月 5日(火)~ 9月10日(日) 栗原幸彦日本画教室 第12回孔雀会展(日本画)
- 1月10日(水)~ 1月14日(日) 高木法子 染色・絵画展(染色・絵画)

※平成30年4月からの利用申込みは、平成30年1月7日(日)午前10時から受付開始します。
利用希望日が重複した場合は、抽選により決定します。(利用申込み開始日以降は、先着順で随時受け付けます。)
※展示予定は、予告なく変更になる場合があります。ご了承ください。



市民ギャラリー会場

美術館友の会のご案内

浜松市美術館友の会は、秋野不矩美術館と浜松市美術館共通の友の会です。

美術という共通の趣味を通じての会員間の交流や、両美術館及び県内提携美術館の入館料割引、美術鑑賞旅行などさまざまな特典があります。ぜひご入会ください。

申込書は秋野不矩美術館と浜松市美術館にあります。

◎会費年額 1,500円(大人)

※平成29年度は、浜松市美術館の改修工事による休館期間があるため、通常年度とは異なる金額となります。

◎提携美術館 静岡県立美術館、
佐野美術館(三島市)、駿府博物館(静岡市)、
掛川市二の丸美術館、平野美術館(浜松市)

美術館ボランティアのご案内

秋野不矩美術館では、美術館の紹介や周辺地域の案内、館内外の環境整備など、美術館運営のお手伝いをしていただくボランティアを募集しています。

文化勲章受章の栄誉に輝いた天竜地域出身の画家・秋野不矩画伯の芸術を広める美術館の活動に、参加してみませんか?

詳しくは、秋野不矩美術館までお問合せください。



竹内栖鳳
《双鶏》
(前期出品)



川合玉堂
《富士》
(後期出品)



南薫造
ジャンク
《戎克》1985年
(後期出品)

※3点とも浜松市美術館所蔵

2005(平成17)年の12市町村合併により、浜松市の公立美術館は「浜松市美術館」と「浜松市秋野不矩美術館」の2館体制となりました。両館は浜松市の芸術文化の拠点として、地域の優れた美術作品を収集・保存し、また、市民の皆様へ質の高い芸術を紹介する展覧会を企画するなど、地域に根差した活動を行ってきました。

今回、浜松市の政令指定都市移行10周年を記念し、浜松市美術館の約7,000点に上るコレクションの中から“日本の近現代美術”の絵画作品に焦点を当て、厳選した名画の数々を展示します。また、地域に関連した秋野不矩作品を核とする小企画も併せて行います。

浜松市美術館は平成29年8月中旬から平成30年4月中旬まで、改修工事に伴う休館に入ります。同館の展覧会が見られないこの期間中、本展にて浜松市美術館の誇る珠玉の逸品をご堪能いただき、平成30年4月からのリニューアルオープンにご期待ください。

特別展 日本画 こころの京都

平成29年4月29日(土)～6月18日(日)

前期:4月29日(土)～5月21日(日)、後期:5月25日(木)～6月18日(日)

日本の伝統・文化の中心地として多様な発展を見せてきた古都・京都は、特色ある風土が育んだ自然や長きに渡る悠久の歴史が、多くの人々の心を惹きつけてきました。

平成25年、京都府は、京都に息づく様々な情景を後世に伝えるべく、京都を拠点に活躍する日本画家100名を選出し、日本画「こころの京都百選」を制作しました。風情ある町並み、歴史ある文化と営み、由緒ある寺社や名所・旧跡、美しい海や山河の風景など、実に多彩な表情を見せる京都が、現代の日本画家たちによって本シリーズに描き出されています。今回、日本人の心のふるさととも言える京都の情趣を、「こころの京都百選」全100点の展示によって、京都府外において初めて公開します。

また、秋野不矩は京都に居を構えて創作活動に取り組み、多彩な制作で日本の芸術文化の発展に大きな功績を残しました。秋野芸術と京都の美、双方の奥深い魅力をご堪能いただけるよう、本展では秋野不矩が京都を描いた作品も併せて展示します。



西野陽一《緋の花》
2013年 京都府所蔵



中町力《あまのはしだて》
2013年 京都府所蔵



秋野不矩《平安神宮》
1973年 京都府所蔵
(京都文化博物館管理)

特別展 創画会70周年記念展

平成30年1月20日(土)～3月25日(日)

前期:1月20日(土)～2月18日(日)、後期:2月22日(木)～3月25日(日)

明治期に西洋絵画が日本へ入ってきて以降、往古より伝わる伝統的な画材・技法による絵画は「日本画」と呼ばれ、時代の荒波に様々な影響を受けながら変容を見せてきました。

戦後期になり日本画の危機が叫ばれるようになると、1948(昭和23)年、この状況を憂えた東西の中堅日本画家たちによって在野の日本画公募団体「創造美術」が結成され、秋野不矩も創立会員として参加しました。同団体は自由と創造の精神を掲げて日本画の革新に取り組み、「新制作協会日本画部」を経て、現在「創画会」となって活動を続けています。

創造美術発足から70年を迎える今年、創画会70周年を記念して、創立会員をはじめ物故会員から現会員に至るまで約90名の作品を展示し、創画会によって牽引されてきた在野精神に基づく新しい日本絵画の創造の歩みを回顧します。



黒澤吉蔵《ガスタンクのある風景》
1956年 郡山市立美術館所蔵



山岸俊治《冬ざれ》
1997年



植田一穂
《ツユクサ》
2016年

所蔵品展のご案内

所蔵品展では、各回のテーマに沿って秋野不矩の画業を紹介し、また、画業後半期のライフワークであったインドを描いた作品を、併せて展示します。

第1回 所蔵品展

秋野不矩 画業の地平Ⅰ ～遙かなる世界へ～ 4月1日(土)～4月23日(日)

1962(昭和37)年、秋野不矩はインドの大学の招きに応じて現地へ赴任し、約1年間の海外生活を経験しました。そこでインドの壮大な自然や人々の生き様に大きな感動を受け、以後創作テーマが一変します。日本国外に取材した情景を大らかに描き上げる制作に生涯をかけて取り組み、独自の画境を拓きました。本展では、《坐す》、《暮れる海》など渡印以前の作品から、《インド女性》、《廻廊(アンコールワット)》などの度重なる海外訪問に基づく制作を経て、最晩年の取材旅行の成果である《砂漠のガイド》までを通貫して展示します。



《砂漠のガイド》2001年

第2回 所蔵品展

秋野不矩 画業の地平Ⅱ ～豊穡なる水の恵み～ 7月1日(土)～8月6日(日)

秋野不矩がライフワークとして訪れ描いたインドでは、季節によって風景が目まぐるしく変化します。湿潤な雨季の気候は、時に荒々しく時に穏やかに生命と自然との営みを紡ぎ出し、その豊かな情景に秋野も強く心を動かされています。本展では、《渡河》、《雨雲》などインドの雨季の様子を伝える作品や、《女神ナギニー》、《サラスヴァティ》など水や川に象徴される神々を描いた作品、また、《石獅子(アンコール)》や《古面シリーズ》といったインド以外の多湿な地域からモチーフを採った作品などを中心に展示します。

《女神ナギニー》1979年



第3回 所蔵品展

秋野不矩 画業の地平Ⅲ ～陽光と灼熱の大地～ 8月8日(火)～9月10日(日)

インドでは多雨な季節を過ぎると、一転して乾燥した気候が訪れます。果てしない静寂と強烈な日差しによる熱気が乾いた大地を包み込み、人為を超えた過酷な環境を見せつけます。しかし秋野はその中でも、懸命に生きる人々の輝きを見落としてはいませんでした。本展では、《平原》、《廃墟Ⅲ》といった厳しい自然の姿を示す作品と、そのような環境下での生活の舞台である《砂漠の街》、《村落(カジュラホ)》、ひいては人々が日々慎ましく祈りを捧げる場を描いた《白い扉》、《テラコッタの寺院》などの作品を展示します。



《平原》1964年

第4回 所蔵品展

秋野不矩 画業の地平Ⅳ ～古き日を想う～ 12月2日(土)～平成30年1月14日(日)

2001(平成13)年、秋野不矩は93歳で亡くなる最後まで、画家であることを貫きました。19歳で天竜二俣を離れ、母として5男1女を育てながら我が子をモデルとした制作や絵本挿絵の仕事に取り組み、その後インドを描いた連作を発表して高い評価を受けました。その輝かしい功績は、故郷に建つ当館を始め様々な団体の活動により、現在も語り継がれています。本展では、故郷にまつわる題材や自身の子を描いた人物作品、子どもたちに目を向けた制作など、秋野の生涯に照らして関連の深い作品を中心に展示します。



《いっすんぼうし》1965年

交流絵画展

◆第8回 浜松市とスイス・ベルン市の絵画交流展～あなたにとって大切なもの「食と環境」～ 12月2日(土)～12月17日(日)

かねてよりスポーツ交流で縁のある浜松市とスイス・ベルン市の両市において、子どもたちの豊かな感性や国際性を育む文化交流事業として、絵画交流展を継続的に実施しています。8回目となる今回は、『あなたにとって大切なもの「食と環境」』をテーマに、両市の小学生から作品公募を行い、入選した優秀作品を展示します。(浜松市美術館の休館に伴い、今年度は秋野不矩美術館にて展示を行います。)

夏休み特別企画

◆ワークショップ ガラス絵をかこう 8月5日(土)

今年秋に開催される企画展「浜松市美術館コレクション選」において、国内屈指のコレクションを誇る浜松市美術館所蔵の「ガラス絵」が展示される予定です。ワークショップで「ガラス絵」の制作に挑戦し、その魅力を先取りしてみませんか?(参加申込方法は、7月頃に広報はままつにてお知らせします。)